

浅川改修計画原案の流域説明会 概要（三輪地区）

平成15年5月20日 19:00～20:20

長野市立三輪公民館

参加者：13名

Aさん

流域協議会のスケジュールはどの様になるのか、いつからスタートとなるか。

県

資料12頁には5月からとなっているが、準備をしている最中。なるべく早く立ち上げたい。

Aさん

一般参加というが、内容的に県の職員とか決まっているのか。

県

長野市、豊野町、小布施町と地域限定ではあるが、会員には誰でも参加が出来る。

県は会員でなく、構成員として土木部、地方事務所（農政、林務）、保健所が参画する。市町村も参画する。

Bさん

専門的説明で分からない。各地域でこのようにしておられるのか。専門家に説明しているよう。ダムを造る時の説明会でも参加者が少なかった。もう少し住民に分かりやすく。今の話はすごく専門的。ダムを止めた概略は新聞、TVで分かるが、100年に一度何百m³/sだから、洪水にならない対策をすることは分かるが、ここに住んでいる、三輪4丁目はこの様になるといった住民に密着した説明をして頂いてから、専門的な話として頂きたい。このような参加者が少ない説明会を何のために開催しているのか理解できない。

県

浅川の治水事業は昭和52年から始まったが、上流のダムを中止して大きな政策の転換をした。

12年の中止以来、県議会でダムの是非を審議し、条例で検討委員会が作られた。ここでどの様な形で治水を進めるか1年近く議論されてきた。専門家、首長、一般応募の方で構成されている検討委員会の中で、基本高水流量（一般の方に馴染みが無いかもしれないが）、川の改修の目標値をどの様に設定するのが妥当か議論された。検討委員会の答申が出てこれから県として、どの様な形でやるかという時。2月議会で、これらの過程が住民に十分理解されていないと指摘があった事から説明会を行っている。言われる通り専門的な部分はあるが、スライド等を用いてできるだけ分かりやすく説明したつもり。専門的な言葉が入っているが、これからは分かりやすい言葉を使っていきたい。

Cさん

私の水害体験は昭和23～24年頃の裾花川の県庁横での決壊。千曲川を廻って、最後に長沼で溢れた。当時住んでいた柳原の自宅で床上1m浸かった。基本高水、どのくらい雨が降るとどうなるか分からない。当時裾花川を決壊させた雨はどのくらい降ったのか。浅川で決壊すれば上松あたりで決壊し、この辺まで押し寄せると思う。この辺はどのくらい降るのか。実感できるよう

な説明を聞きたい。

浅川の論電ヶ池が決壊した時、大きな被害があった。雪解け時にドンと水が出た。どのような時に出るのか。なまじ水を溜めておくのは危険との説明があった。浅川の治水で一番問題になるのは長沼、豊野の内水。千曲川の上流で雨が降ったら、あの堤防で間に合うか不安。

県

浅川の河川改修を考える場合、流域でどの位の雨かを想定することが基本となる。100年に1度起こり得る雨を想定して流量を計算し、それに耐え得る施策を講ずることが河川改修、治水対策の基本。従前は100年に1度という水準で考えてきた。日雨量で130mm/日。今回説明しているのは、50年に1度の確率雨量に対するの河川改修。日雨量116mm/日。昭和24年の裾花川決壊の資料は持ち合わせていないが、他の災害の実績を申し上げますと、

昭和25年8月の災害時は日雨量112mm/日。

昭和56年8月の台風15号、千曲本川にも被害が出た。日雨量113mm/日。

昭和58年9月の台風10号、飯山堤防が決壊した。日雨量87mm/日。

平成7年7月、姫川水系で大きな被害。76mm/日(長野気象台)、114mm/日(飯綱観測所)。

論電ヶ池が決壊したことにより下流に土石流として押し寄せた記録がある。河川の改修とともに上流の土砂対策(砂防的施設)も、治水計画の一環として考えていく。

千曲川は犀川と合流した大きな河川であり、国が管理している。下流での内水対策も講じていかなければならないとの答申も出ている。大きなスケールでの対策となり、時間がかかると思われる。

Dさん

浅野の内水氾濫が4～5年に1度ある。これが一番問題。立ヶ花では鉄橋が水をかぶっている。浅川は千曲川より低いので氾濫すると聞いている。上流に押し寄せて来るのか。

県

豊野地区の水害は、浅川の千曲川合流点に樋門があり、千曲川の出水時、逆流防止のため樋門を閉めてしまうため、浅川の水が外に出なくなる。農水省サイドの湛水防除事業でポンプ排水機場がある。昭和58年に大きな被害があった。このときに比べ排水機場のポンプ能力は14m³/sから44m³/sの能力に増強された。浅川にも長沼排水路があるが、ここにも浅川に内水を汲みだすポンプ(16t/s)設備が出来ている。昭和58年以降は、大きな浸水災害はないが、増強されたポンプ機能でどの位の効果があるかはよく分からない。設備は出来ているが、それだけでは足りない。豊野地区からは更にポンプの増強願いが出ている、内水対策についても県として研究していかなければならない。

Eさん

ダム計画には目標(最終)年度があったが、河川改修と流域対策の目標年度はいつか。

県

目標をセットするに至っていない状況。大きな転換をしており、河川改修をどのようにするか、2割分の流域対策が説明に至らない状況。これらが出ないと事業費も分からない。河川整備計画を立てるにも概算事業費、目標年度は必要であるが、今後詰めていく。国へ申請して認可を取り早く工事をしなければならぬ。

Eさん

河川の改修が確定するのはいつですか。

県

今は原案。流域協議会で住民のご意見を聞き、平成 15 年度中に成案にし、国に説明を行って、平成 16 年度から河川改修工事に取りかかる予定。

河川改修案は、ダムを中止して 8 割を河川改修、2 割を流域対策でやる。450m³/s そのものが検討委員会で問題になったが、450m³/s には根拠がなく過大な計算。本当に 450m³/s 出るのか、県は浅川上流に 5 年間 3 千万円でデータを取るとのことだが、7 日の話ではまず河川改修を先に進める。流域対策については、流域協議会で細かいことをやっていかないとならない。前県政は浅川ダムを造れば内水対策も解決するとの説明をしてきた。長野市は各家庭での貯水施設に補助金を出している。各家庭で水を下流に一時に出さないようにする等の方法があると思う。河川改修の原案は早急に進めていただきたいと思っている。当然流域対策も早くやらなければならない。4 月の長野市への説明の際、流域対策がセットでなければ「ウン」と言わないとの新聞記事があった。私は、長野県民であり長野市民である。命と財産を大事にするのであれば、セットで出さなければダメだとの発言で遅れているとなれば、長野市民として首長に対し問題ありと思う。河川改修は分離で進められる事と理解してよいか。

流域対策については色々メニューがあり、具体化にも時間がかかるとの観点からも、県としては早く河川改修を行いたいと言うことで進めている。流域対策も合わせ持つ方がよいが、河川改修を急いでいる。

だいぶ認識が新たになった。流域協議会とあるが、この地区に長くは住んでいなく被害を受けたことがない、友人の話を聞いたくらいである。ダムを止めて直ぐだから、100%OKなモノは無理と思う。次回の説明では、施行箇所は力関係でなく、どこからどの様に始めるのか説明願いたい。知事がダム中止の発表の時に説明会を見に行った。この時は賛成反対がやり合っていた。このようなことは県民の利益にならないため、専門的知識の意見の上、みんなが分かり易く納得する説明会にして頂きたい。ダムの騒動と同じにならぬようにしてほしい。

檀田大橋の西は整備されているが、東はヨシが生え、水流の幅も 1 m 程である。下流は吉田地区だから黙っているが、心配である。

今回は説明会の回覧が急。配布する者に迷惑がかかる。市報配布日(1・15日)の4日前にして頂きたい。

今のお話は上流の未改修部分。具体的に言えないが、未改修部分を優先的に整備していきたい。回覧の件はお詫びする。5月7日は時間がない中で決まった。また、5月の連休もありお詫びする。これからは気を付ける。